

### Vol·17, April'24

宇都宮大学国際学部・国際学研究科同窓会東南 アジア支部は、同窓会本部承認のもと2017年8月 に創設されました。東南アジアをこよなく愛する 同窓生のネットワーク再構築を目指し2017年9月 よりニュースレターを発行しています。この ニュースレターが 一人でも多くの同窓生に届き ネットワーク が広がっていくことを願っています。

## Content

1.ご挨拶 2.懇談会 3.新年度特別企画

4.連載コーナー: トコロ変わればザ★談会(第10回) / タイの昨今 (第17回) / 狙え!インスタ映え!?(第13回) / ともに感じる東南アジア(第13回)

### 1. ごあいさつ

みなさん、こんにちは!日本は花粉が深刻ですが、こちら東南アジア各地では タイを筆頭に毎日大気汚染が深刻です。特にタイのチェンマイでは大気汚染が3月中 旬に世界ワースト1位となり事の深刻さを物語っています。原因の多くがこの時期に行 われる焼き畑による煙害です。そんなマスクが手放せない日が続いていますが、私た ちは変わらず東南アジア愛を伝えていきたいと思います。どうぞ4月号ニュー (東南アジア支部事務局 大畑美優紀/タイ在住) スレターをお楽しみください!

# 2. 懇談会

### 農学部名誉教授

23年 10月22日(土)、大部さん(工)、池内さん(農)、大畑さん、大宮さ ん参加のもと、タイ・バンコクにて農学部名誉教授・後藤先生との懇談会を開 催しました。後藤先生とはコロナ禍を経て、4年ぶりの再会となりました。先 生方とのつながりは同窓生としてとても貴重なものです。タイにお越しの先生 方、是非ご連絡お待ちしています!

#### 泉田スジンダ先生



24年2月24日(土)、池内さん(農)、大畑さん、大宮さん、柴田さん参加 のもと、タイ・ノンタブリーにて泉田スジンダ先生ご夫妻との懇談会を開催し ました。スジンダ先生とはやはりコロナ禍を経て約4年ぶりの再会となりまし た。変わらない先生のお姿と情熱に、私たちも学生時代にタイムスリップ!時 が経つのを忘れてしまうほど楽しいお時間となりました。また次回もそんな先 生の変わらないお姿を拝見できることを楽しみにしています!

#### ①書籍名②著者名③コメント

# ①バナナと日本人、

エビと日本人 ②村井吉敬

③おそらく大学時代に読んだ本。東 南アジア/東アジアが日本ととても関 わりの深い地域であるのに、高校ま での世界史では勉強してないこと、 何と自分には知らないことが多いの だ、と思い知らされた本の一つです。 表面だけでなく多面から見つめて本 質を理解する努力を怠ってはいけな とその当時の心の衝撃を改めて 思い返しました。 (原)

#### ①マッサージ・ガール ~タイの経済開発と社会変化

②パスク・ポンパイチット ③大学1年時に先生に紹介頂いた一冊。 タイの経済成長が著しい1990年に発行 されたこの本には、経済成長に伴うタ イ社会の光と影が綴られており、私に とって非常に衝撃的で、タイ社会に目 を向けるきっかけとなる一冊でした。 今年はもう一度この本を読み直し、初 心に戻ってもう一度客観的にタイを見 つめ直してみたいなと思います。 (大畑)

#### ①自由 自ら綴った 祖国愛の記録

②アウンサン・スーチー ③高校の頃、読書好きの友達に感化 されて読んでみた本。単に、分厚い 本を読んでみよう!という軽い気持 ちでこの本を手にした記憶がありま す。内容については、難しくて読む のを途中でやめてしまったのでほと んど覚えていませんが、ミャンマー パールス スーチーさんの奮闘に心動か され、宇大国際学部受験を志すきっ かけになりました。

### 新年度特別企画 今回はメンバーの皆さんに、若き頃に思い

をはせ東南アジアに興味を持つきっかけに なった書籍を思い出して頂きました!



#### ①好きになっちゃった バンコク

③高校時代、交換留学の派遣先がバ シコクでした。今となっては「ある ある」ネタばかりなのかも知れませ んが、ネットもまだ普及していな かったあの頃、留学前はこの本の内 カールのい頃、田子川はこの400円 容に興味津々でした。タイ文字、食 容に興味津孝でした。タイ文字、代 で物、嗅ぎ薬、冷んやりするベビー パウダー、歌手など幅広く紹介され ていたと記憶しています。続編も出 ているので機会があれば読んで、バ ンコク暮らしを懐かしみたいと思い (知念) ます。

が

**(**)

東

ア

 $\mathcal{O}$ 

# ①旅の指差し会話帳 タイ語

②加川 博之 ②タイ語を学び始め、初めてタイの農村を訪問する際に購入した本です。農 村の子供たちとなんとかコミュニケー ションを取るべく、指差しながら会話 をしたり、変な発音やニュアンスが少 し違う単語で笑われたりしたのもタイ 語学習の第一歩でした。この本のおか ロテロンス げで、沢山のタイの友人と会話を交わ す機会に恵まれました。 (大宮)

#### ①運命の長女 スカルノの娘メガワティの半生

#### ②秋尾沙戸子

③インドネシアに興味を持っていて、政変が起こった後に発刊された本書。 「改革の旗手」と注目されたメガワティの半生を追うことができます。大統 領の娘として「9・30事件」をどのように迎え、その後いかなる半生を 辿ったのか、夢中になって読んだ記憶があります。 (佐々木)



#### 第10 回のお題は、こちら!

### あなたの目録であなたの住む地域の EV車番及事情を教えて!





#### 晋及状况は?

燃油の高騰とタイ政府のEV車購入に 対する補助金政策が追い風となり、街でEV車を目にする機会が増えました。 タイ政府がタイをEV生産のハブにする と意気込む中、BYD、GWM、NETA 等多くの中国メーカーがタイ現地生産 に向けて動き出しています。米系 TESLAも富裕層を中心に人気です。昨年末のモーターショーではトヨタが何 とか首位を保ったものの、中国車EVの BYDが2位のホンダと大差なく3位にランクイン。既に月の新車登録数では EV車が10%以上を占めるようになったとか?

昨年9月より香港在住です。MTR、トラム、バス、船と公共交通が充実しており庶民は自家用車がなくてもまったく不便はありません。香港の人は私が8月まで滞在していた中国本土と比べると、まだまだエンジン音を愛する人が多いような気がします。でも、やはりTeslaとかBYDなんかもよく見かけます。

チェコでは、2023年9月時点で販売された新車のうち電気自動車はわずか2.69%で、約40台に1台となっているようです。これはEU内普及率最後から2番目となっております。道を歩いていても電気自動車を見かけるとおっ!と目を引くぐらい普及率は低いです。とにかく車の値段が高い!!実はそれに尽きるような気がします。あと田舎に行くと普通の小屋でさえ電気が通っていない場所もあるので電気に頼ると碌な目に合わない、俺らはガソリン、ディーゼルで行くぜ!という風潮です。

#### 街中のEV整備は?

ガソリンスタンドや大型商業施設の駐車場には充電設備が増えてきました。EV購入者は、自宅に充電スタンドを設置していることも多いようです。個人的には、渋滞の酷ハバンコクでエネルギー不足となり立ち往生するのは怖いなと思い、イマイチ興味が湧きません。バッテリーの耐久時間と充電時間の短縮が今後の課題かと思います。

ちょっと郊外の町を訪ねたときに 充電スタンドを見たことがあります が、住んでいるあたりは高層ビル街 なので駐車場もビルの中にあること が多く、地上を歩いていても実態が よくわかりません。政策的には公共 駐車場での無料充電サービスが進め られているとのことです。香港は狭 いので出先で電池切れとか滅多ない のでしょうね。

最近はマクドナルドや大型スーパーの駐車場で数台の電源ステーションが見られるようになりましたがまだまだ普及率は低いです。こうやって時々設置されてありますが、、ほとんどフルで活用されている場面が少ないです。。無料なはずなのに愛

### 話題や今後の展望は?

中国勢EVショールームの急増が物語っている通り、 世間の流れはEVへ。しかしながら一方で修理やアフターケアなどの面を不安視する半信半疑な層ももちろんいるわけで。ただ、今のところはそれほど値段が変わらないHEV日本車を選択するとしても、今後その不安が一掃され、バッテリーの品質とEV整備がより向上すれば、地方も含めてEVがより普及し始めると思います。新しいもの好きのタイ人ですから、まずは一台買ってみようと購入する人は今後も増えてくるのでは?

昨年から完全EVの2階建てバスが一部登場しているようです。またこの3月からBYDのEVタクシー200台が運行を始めたというニュースがありました。北京などと比べるとようやくかという感じですが、2027年までに3,000台導入とのこと。これまで香港タクシーで圧倒的シェアを誇っていたトヨタのクラウンが減っていくのかなあ。



電気自動車に抵抗があるその理由としてよく挙げられるのは、チェコの給与が西ヨーロッパほど高くないため価格が高いこと、BEVの種類が少なく充電インフラが不足しているため、長距離の移動に使用することが難しいことが挙げられます。去年大雪の際に多くの電気自動車が高速道路で立ち往生したドイツのニュースなど自然災害に非常に弱いことを目の当たりにすると電気自動車を所持する利点があまりなくチェコに電気自動車が普及するのはまだまだ先だと思われます。

電気自動車普及応援事業として電気自動車保持者はプラハ市内の有料駐車場が無料だったのですが今年10月でこの政策も打ち切りが決まりました。政府は新しく魅力の政策を打ち出さねばチェコの電気自動車普及は世界の普及率と反して減速を辿るような気もします。。。

#### タイの昨今 ~第17回~

昨年末、バンコクから500キロ北に位置する「プーグラドゥン国立公園」にて2泊3日のキャンプを楽しんできました。27年ぶりの訪問です。このプーグラドゥン国立公園、特に古い世代では「一生に一度は登りたい山」としてタイでは有名どころ。標高1.288メートルとそれ程高くない山なのになぜ人気が衰えないのかというと、はやり登山を気軽に楽しめる環境が整備されていることかと。荷物はポーターの方々が山頂まで運んでくれるし、4-5時間かけて登り切る道中には休憩ポイントがあり食事や飲み物を提供してくれる売店が完備。頂上に着けば、テントや寝袋枕などの貸し出し、売店の数々が私たちを迎えてくれ、切り株のような形をした山頂では、入域範囲制限があるものの、鹿や象などの野生動物が生息する環境の中でハイキングが楽しめる。このように管理された中で登山かつキャンプができる国立公園はタイ国内で他にはないのでは?



このような登山環境は少なくとも以前私がに登った時と基本 変わりものの、今回は現代には欠かせないネット環境がしっか りと整備されておりました!頂上でもwifiが問題なくつながり、 スマホも売店で自由にできるという充実ぶり。こんな便利な環 境じゃキャンプの醍醐味も半減するじゃん!と不満に思う一方 で、やはりその便利さをありがたく思う自分もいるわけで。

そんなますます便利になったプーグラドゥンに、最近新たな計画が。ロープウェイの建設です。「一生に一度は登りたい山」に自力で登りたくても登れない方には朗報である一方で、ロープウェイができてしまったら、登山客が減りポーターや山道で生計を立てている売店関係者にとっては死活問題になることから賛否両論。ただ、年々ポーターになる若者も減ってきているというし、ロープウェイができたら

### ~変わるもの変わらないもの~

ポーターいらずで気軽に山頂に行け、ハイキングやキャンプが楽しめるというのは確かに魅力的。ロープウェイから見渡す山々の美しさはきっと登山だけでは味わえない魅力の一つともなるでしょう。

とはいえ自ら登り切った人にだけしか与えられないものもあるのです。それは、

### "一生に一度、

#### 我がプーグラドゥンの制覇者だ!"

頂上に登り切って最初に目にするこの言葉。時代が変わってもここには変わらない称賛の証が。 便利な世の中になっても、 プーグラドゥンはまだまだ私たちを 魅了し続けることでしょう。 (大畑)



アジア取材雑記 第13回



皆様こんにちは。TVディレクターの谷澤です。 インドネシアを拠点に東南アジアでTV番組の企画制作をしております。

『 "蚊との闘い" 最前線 』

多少の気候の変化はあるとはいえ、基本的には"常夏"の東南アジアにおりますと、毎日のように悩まされるものがあります。蚊です。実に憎たらしい表情をしたコイツ…単に睡眠を妨害されたり、吸血されて痒くなったりして悔しい、という以上に、いま人類にとっての脅威になっています。

WHO(世界保健機関)によると、デング熱、マラリア、そしてジカ熱といった蚊が媒介する感染症で、年間およそ70万人が命を落としています。さらに気候変動の影響で蚊の生息範囲は年々広がっており、デング熱の患者数は20年前の10倍以上に急増しています。

こうした中、インドネシアのバリ島で今、"デング熱撲滅"を掲げた新たなプロジェクトが始まっています。豪州に本部を 置く「 WMP(World Mosquito Program)\*」が、地元当局と協業し、デング熱を媒介しない"特殊な蚊"を自然界に

どんどん放ち、その総数を増やしていくというものです。カギを握るのは"ウォルバキア"というバクテリア。これを蚊の卵に注入すると、成虫の体内でデングウイルスが育たないことが判明しています。

およそ40年をかけて研究・実験を重ねられたこの手法は、すでに世界14カ国で採用されており、デング熱の発症数が急減したという結果が医学界で注目されています。デング熱にかからないなら安心…と思いたいところですが、取材中にかなり刺されてやっぱり痒く、蚊への憎き感情は変わりませんでした…。###

(\*WMPは国連機関みたいな名称ですが、モナシュ大学発の非営利企業。創始者は蚊の研究で世界的権威とされるスコット・オニール博士です。宜しければ私が取材・制作したこちらの番組をご覧下さい)

https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/ondemand/video/2105062/

(谷澤壮一郎/インドネシア在住)



5歳の息子にカブトムシブーム到来!
バンコクの昆虫ショップにカブトムシの
幼虫を買いに行ったら、お店の人が
幼虫を買いに行ったら、お店の人が
すぐに「Kabutomushi chai mai?」
(カブトムシでしょ?)と聞いてきました。
カブトムシという言葉と、日本人の子供
カブトムシが好きというイメージが定
=カブトムシが好きというイメージが定
着しているようです。昆虫を追いかける
着しているようです。昆虫を追いかける
いう情報もあります。毎日毎日YouTube
いう情報もあります。毎日毎日YouTube
マカブトムシの動画を見続ける息子、早
くカブトムシのいる森に放ちたいです!



柴田 友美子

南国タイでもブトムシ

第十三回 ともに感じる東南アジア

#### 東南アジアへの想いを共に発信していく仲間(国際学部・院同窓生)を募集しています!

東南アジア域内在住同窓生・元留学生・東南アジア域外在住で東南アジアに関わりたい、関わっていきたい同窓生 興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ事務局兼ニュースレター編集係までご連絡ください。 数多くの同窓生からの声をお待ちしています! 事務局:大畑(miyukiohata@gmail.com)

現メンバー(16名) ▶大畑美優紀 95・マリー/藤田研▶田邊知成 96・小池研▶ ROMANOV (當眞) 里絵 96・佐々木(史)研▶栗林 (泊) 祥子 96・梅木研▶平田 勝博 97・友松研▶本間 みずほ 97・田巻研▶原理恵 98・藤田研▶谷澤 壮一郎 02・石濱研▶大宮 勇樹 06・マリー研 ▶知念(高田)知佳00・田巻研▶諸頭(岩山)晴奈05・阪本研▶小沼 洋子 97・藤田研▶藤井満春 00・友松研▶佐々木哲夫 99・藤田/中村(祐)研▶駒形麻朋実17・田巻研▶柴田(佐々木) 友美子06・重田研(※数字は入学年度)